

学 界 消 息

1. ヒャクネス教授に IMO 賞

第4回IMO賞は、カリフォルニア大学教授 J. Bjerknes 博士におくられた。授与式は1959年8月12日ノールウェーのベルゲン大学で、同大学学長 Waaler 博士の司会で行われ、賞は第6地区協会長 Nyberg 博士から手渡された。

2. 日射計の国際比較

1959年8～9月に、スイスのダボス物理気象観象台で、WMOの「輻射観測作業委員会」の主催による日射計の国際比較が行われた。参加国は日本を含め16ヶ国、30人の科学者が参加した。

3. カナダ気象台長更迭

1959年10月カナダ気象台長 A. トムソン博士が定年で退任し、次長の P.D. マクターガート・コーワン氏が新台長に就任した。

4. インド気象台長更迭

インド気象台長であり、第2地区協会長であった S. バス博士は1959年10月退任し、P.R. ラオ氏が新台長に就任した。

5. 日本の WMO 分担金

1960年度の日本のWMO分担金は総額16,385ドル（邦貨にして約590万円）ときまった。

6. 函館海洋気象台の予報分室移転

函館海洋気象台の予報分室は、12月4日函館市東浜町6から同市の船場町19に移転終了し、同日午後から新庁

舎で業務が開始された。

7. 米空軍から「台風之眼」の写真を寄贈

米空軍第1気象隊（ハワイ）司令官シュバス大佐は第10気象隊（府中）司令官ピアス大佐と共に来庁、その際昨年9月の狩野川台風之眼の写真（1959年9月24日17時17,000mの高度で撮影）を寄贈した。

8. 村山氏渡米

科学技術庁 原子力局に併任されている測候課 放射能係 村山信彦氏は、米国ワシントン気象局のマクタ博士のもとで「放射能塵の拡散と気象との関係」を研究するため、原子力関係留學生として科学技術庁から去る12月16日米国へ出張された。

9. 山口氏豪洲に出張

測候課観測係 山口協氏は、オーストラリアのシドニーで「主として雲に関する研究」を行なうため、来る2月に出発される予定。

理 事 会 便 り

第20回常任理事会議事録

日 時 昭和34年12月4日 16.00～17.00

場 所 東京管区気象台長室

出席者 伊東・吉武・畠山・根本・村上・今井・神山
岸保・淵各理事（順序不同）

決議事項はつぎのとおりです。

1. 村上理事が米国出張準備のため辞任し、肥沼寛一氏が就任することとなった。

2. 第11期選挙管理委員会委員として、下記の諸氏にお願いすることとなった。

伊藤 博（委員長）、伊東 宏、岡本武彦、都田菊郎、篠原武次、小沢 正

3. 村上理事の下記委員の後任として、次のとおりお願いすることとなった。

第10期講演企画委員会委員 松本 誠一

第10期気象研究ノート編集委員 栗原 宣夫

4. 学会に対する文部省の補助金申請には吉武理事が当ることとなった。

5. 原水爆禁止の科学者アピール支持署名に関しては「天気」に掲載することとなった。

6. 北鮮からの文書に関しては「天気」に要点を掲載することとなった。

7. 日本原子力研究所図書館と機関誌の交換をすることとなった。（なお、同研究所からはすでに寄贈されている）

8. 明治大学科学技術研究所とは、機関誌を出しているならば、交換を了承することとなった。